

科目名	理学療法管理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	園田 剛之		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	理学療法士が活躍している現場での業務内容や組織構造を学び、将来就職する分野の選択に繋がるよう具体的な事例を出しながら講義を行っていく。また、臨床現場でのリスクの把握、その管理体制の実際を学び、今後の実習準備に繋げていけるよう演習を取り入れながら実施していく。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各施設での理学療法士の業務内容や組織構造を理解できる。	
	○	○				医療や介護施設での診療報酬体制を理解し、収益構造について説明できる。	
	○			○		病院、施設、在宅などでの対象者に対するリスク管理について理解できる。	
	○			○		診療録や各種報告書などの書類の意義を理解し、模擬ケースを基に記載できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)石川 朗 総編:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法管理学. 中山書店. 2020年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総論 管理、マネジメントとは…理学療法管理学が必要とされる背景			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	理学療法士の職業倫理 インフォームド・コンセント、個人情報保護、ハラスメント など			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3	病院の分類と組織 医療法および関連法規、各医療機関の特徴、組織構造、各種委員会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	4	介護保険関連施設・その他 理学療法士の活躍する場 施設の特徴・組織構成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5	医療保険制度と介護保険制度① 医療保険			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	6	医療保険制度と介護保険制度② 介護保険			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	7	診療・介護報酬と収益構造① 人件費とコストの仕組み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	8	診療・介護報酬と収益構造② 演習			演習として課題を行います。これまでの資料を参考に して考えてみましょう。		
	9	業務管理 理学療法士の業務の流れ・多職種連携・業務 労務管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	10	情報管理 診療記録の意義・本校実習での経過記録について			実習での書類の記載方法について事例をもとに演習 を行います。		
	11	リスク管理 医療、介護におけるコンプライアンス・インシデントとアクシデント①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	12	リスク管理 インシデントとアクシデント② 臨床実習での事例と対応			事例をもとにレポート記載の演習を行います。		
	13	特別講義① 医療施設での業務管理の実際			講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。		
	14	特別講義② 介護施設での業務管理の実際			講義後に感想または学んだことのレポートを実施し ます。		
15	まとめ 実習に向けての心構え・理学療法士を目指すにあたって			本講義のまとめを実施します。配布プリントを持参し てください。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意							

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. パーキンソン病とパーキンソニズムの違いについて説明できる。 2. パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。 3. パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。 4. 運動失調の分類と代表的疾患を挙げることが出来る。 5. 運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。 6. 運動失調に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。 7. その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		適切な情報収集と目標設定から各疾患から考えら得る問題点をあげその根拠を説明できる。	
	○	○		○		パーキンソン病の病態把握とその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		運動失調の病態は空くとその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		各神経疾患の運動療法についてその目的と根拠を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 病気がみえる Vol7 脳・神経 2. 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション 中枢神経系の解剖・生理				教科書の予習をしておく。	
	2	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理① パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	パーキンソニズムの理解 パーキンソン病に対する薬理の理解 パーキンソン病の評価点				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病 ここまでの整理 レナードの朝より病態を想起する。				小テスト実施(ここまでの理解) レナードの朝を見て病態を想起する。	
	5	パーキンソン病の理学療法 ケーススタディ				授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	パーキンソン病の理学療法 介入方法				実技を実施して 介入方法を学ぶ。	
	7	パーキンソン病の理学療法のまとめ				パーキンソン病に対する理解確認 小テスト実施	
	8	運動失調症の病理と脳機能解剖① 運動失調症の病理と脳機能解剖②				授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	運動失調の評価と問題点				授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	運動失調の理学療法				失調症 病態生理の理解 小テスト実施	
	11	運動失調の理学療法(ケーススタディ)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	運動失調の理学療法のまとめ				失調症の理学療法 理解の確認 小テスト実施。	
	13	筋萎縮性側索硬化症と多発性筋炎の病態生理				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	神経難病に対する治療アプローチの原則を理解する				授業資料のまとめを復習しておく。 小テスト実施	
	15	まとめ 国家試験対策				国家試験問題で全体の理解を確認を図る。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		70%
	小テスト	○	○		○		20%
	宿題・レポート 発表・作品	○			○	○	10%
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	Neuropathy Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	村上 真由美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者治療など		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	○	○		○		MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	○	○		○		急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
	○	○		○		脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 極める脳卒中の理学療法 エビデンス思考に基づくアプローチ. 文光堂 2) 症例動画でわかる 理学療法臨床推論 -統合と解釈 実践テキスト-. 羊土社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 脳血管障害総論			教科書の予習をしておく。		
	2	脳血管障害の評価			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	脳血管障害の訓練			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	急性期の理学療法① 急性期の病態			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	急性期の理学療法② リスク管理・治療計画立案			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	回復期の理学療法① 回復期の病態・リスク管理			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	回復期の理学療法② 起居動作訓練			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	回復期の理学療法③ 歩行の特徴			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	回復期の理学療法④ 歩行訓練			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	脳血管障害に対するその他の理学療法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	リハビリテーション実施計画書① 概要説明・作成演習			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	リハビリテーション実施計画書② まとめ 脳血管障害のリハビリテーション まとめ			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	画像所見(CT、MRI、血管撮影)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	国家試験対策 演習問題			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
15	授業総復習・まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	骨関節障害 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山下 慶三		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 4. 各疾患に対する理学療法を実施できる。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				骨関節疾患に関わる解剖学的知識を整理することができる。	
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。	
	○	○	○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。	
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。	
	○	○				ケーススタディを通し、問題点を把握し、その臨床推論過程を整理することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 標準整形外科 第14版 井樋栄二・吉川秀樹 他 監修 医学書院 2019 2. 運動器の運動療法 第1版 小柳磨毅他編 羊土社 2017						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方・クリニカルパス) 肩関節障害の捉え方(運動学との繋がりを理解する)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	肩関節障害の理学療法(実技) 上肢機能障害の理学療法(実技)			授業資料の復習をしておくこと。		
	3	上肢機能障害の理学療法(実技) 肩関節障害の理学療法(ケーススタディ)			授業資料の復習をしておくこと。		
	4	運動連鎖の考え方 総論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	運動連鎖から考える障害の捉え方			授業資料の復習をしておくこと。		
	6	股関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 股関節障害に対する理学療法(実技)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	股関節障害に対する理学療法(実技)			授業資料の復習をしておくこと。		
	8	膝関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 膝関節障害に対する理学療法(実技)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	膝関節障害に対する理学療法(実技)			授業資料の復習をしておくこと。		
	10	膝関節障害に対する理学療法(実技)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	足関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 足関節障害に対する理学療法(実技)			授業資料の復習をしておくこと。		
	12	足関節障害に対する理学療法(実技)			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	13	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	14	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
15	国家試験問題 演習 :まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○	○			85%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎				5%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	花田 穂積		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	本講義では、臨床的に多くみられる体幹機能障害に対する理学療法の考え方を学び、脊髄損傷、関節リウマチの病態理解からADL指導までを学んでいく。体幹機能障害に対する理学療法については実技を主体とし体験を通し、理解を深めていく。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				体幹機能障害を呈する疾患について理解でき説明できる。	
	○	○	○			体幹機能障害に対する理学療法評価・治療を実践できる。	
	○	○	○			脊髄損傷の病態、合併症のメカニズムを理解し、残存レベル毎のADL指導を実践できる。	
		○	○			関節リウマチの病態、特徴を理解し、ADL指導を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	岩崎 洋編:脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版,文光堂,2015 リハ実践テクニック 関節リウマチ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脊髄損傷の概要 脊髄損傷の発症の原因、歴史的背景				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	脊髄の解剖について 中枢神経(脳・脊髄)、抹消神経、運動・知覚伝導路				授業資料の復習をしておくこと。	
	3	脊髄損傷の理学療法評価 損傷高位の診断:①皮膚知覚脊髄支配、②筋節、③反射				授業資料の復習をしておくこと。	
	4	頸髄損傷の特徴 ①完全損傷、②不完全損傷の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	頸髄損傷の合併症 ①自律神経障害(起立性低血圧、自律神経過反射、体温調節、褥瘡など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	6	頸髄損傷の合併症 ②排尿・排便障害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	頸髄損傷の合併症 ③呼吸障害				授業資料の復習をしておくこと。	
	8	脊髄損傷における評価及び運動療法 急性期、回復期、維持期における理学療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	頸髄損傷における理学療法:損傷レベルに応じた基本動作(寝返り～起き上がり、移乗、座位保持、車いす操作)				授業資料の復習をしておくこと。	
	10	胸・腰・仙髄損傷における理学療法 損傷レベルに応じた基本動作(移乗、座位保持、車いす操作、歩行)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	その他脊髄疾患:腰痛症、頸髄症の症状、原因及び運動療法 関節リウマチの概要:原因、疫学的特徴				授業資料の復習をしておくこと。	
	12	関節リウマチの症状及び治療について ①変形の進行過程、②合併症、③薬物療法について				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	13	関節リウマチの理学療法について ①リウマチ体操、②各関節の運動療法、③ADL指導				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	14	関節リウマチの症例検討 脊髄損傷の症例検討				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
15	脊髄損傷及び関節リウマチのまとめ 国家試験対策				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
評価方法	(1)授業後小テスト毎回実施する。(2)中間テスト実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 小テスト:10% 中間テスト:30% 定期試験:60%						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎	○			
	小テスト・中間テスト	○	◎	○	○		
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	西村天利・今山隆士		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として 病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 運動に必要なエネルギー代謝と循環応答を理解する 2. 循環器系の解剖と生理を理解する 3. 心電図を読むことができる 4. 虚血性心疾患の病態と心臓弁膜症と大動脈の疾患について学習する 5. 運動処方と運動療法の考え方を理解する 6. 代謝疾患の病態を理解する 7. 代謝疾患の理学療法を理解する。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において循環器・代謝疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				循環器・代謝理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーションと循環器系および腎臓の構造と機能 第1章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	2	臨床に必要な心不全の知識			指定範囲の教科書の予習・復習		
	3	病態・検査と治療 心不全 8章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	4	心配運動負荷試験			指定範囲の教科書の予習・復習		
	5	運動耐容能とその評価 4章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	6	急変時対応(リスク管理)			指定範囲の教科書の予習・復習		
	7	心電図不整脈の診かた 2章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	8	病態・検査と治療			指定範囲の教科書の予習・復習		
	9	心血管理学療法の実際 14章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	10	心臓リハビリテーションの実際			指定範囲の教科書の予習・復習		
	11	中間テスト 復習			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	12	腎臓リハビリテーションの実際			指定範囲の教科書の予習・復習		
	13	糖尿病の理学療法の実際病態・検査と治療 9・10章			授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習		
	14	糖尿病の理学療法の実際			指定範囲の教科書の予習・復習		
15	まとめ、試験			指定範囲の教科書の予習・復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内課題	◎	◎				50%
	質問の実施		○		○		20%
	基礎テスト		◎				30%
履修上の注意	奇数回の授業は全てGoogle classroomで実施します。定期テストは一切行いません。欠席した場合は、Google classroom上で個人で課題の遂行を全て行って下さい。課題は1単元180分間で設定しています。						

科目名	小児発達障害						
科目名(英)	Childhood Developmental Disorders						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松岡 美紀		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法士として従事		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	・小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児理学療法の考え方、対象疾患について説明できる	
	○	○				原始反射と姿勢反射について説明できる	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
	○	○				脳性麻痺の異常発達について説明できる	
	○	○				脳性麻痺の評価と治療について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 :小児理学療法学テキスト改訂第3版 南江堂 2018 その他:国家試験を使って、ワーク形式で行っていきます。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方			授業内容に該当する指定教科書の部分を読んでおく		
	2	脳の発達と随意運動の始まり			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	3	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について①			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	4	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について②			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	5	脳性麻痺の概念・病態について 脳性麻痺のタイプ別特徴について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	6	NICUの理学療法・評価について(GMFCS・GMFM・PEDIなど) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	7	中間テスト					
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	9	脳性麻痺の特異的運動発達について(両麻痺) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	10	脳性麻痺の特異的運動発達について(アトニーゼ) グループワーク			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	11	脳性麻痺の評価(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	12	脳性麻痺の評価と解釈(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	13	脳性麻痺の治療の考え方(ケーススタディ)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	14	その他の小児疾患について(筋ジス・広汎性発達障害含む)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で予習をもとに発表してもらおう。また、授業中の挙手での発言も採点する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	3単位	時間数	135時間	担当者	理学療法学科教員		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	指導・監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像を捉える。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。						
授業形態	講義: △	演習: △	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		知識・技術・人格が理学療法の三本柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる	
		○	○	○		検査測定の知識や技術を実際の患者に実施できる。	
	○	○				収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3						
	4						
	5	・評価実習事前セミナー: 2024年1月29日(月)～2月3日(土) OSCEによる診療技能練習と試験を実施					
	6	国家試験問題を利用した知識面の整理と実力テストの実施					
	7	コミュニケーション講座によるソーシャルスキル向上					
	8	メンタルケア講座を実施					
	9	・評価実習: 2024年2月5日～2月24日(土) ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	10						
	11	・評価実習事後セミナー: 2024年2月26日～3月2日(土) 各施設で学んだ事、担当症例のまとめなどを作成し、発表会を実施					
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・評価実習事前セミナー: 事前OSCEおよび実力テストなどを実施 ・評価実習: 実習状況報告書など ・評価実習事後セミナー: 実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		60%
	事前セミナー	◎	◎	◎	◎		20%
	事後セミナー	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							